

一例として齊己「贈孫生詩」に「待折東堂桂、帰来更苦辛」の句が見えるのも、郤詵の故事を踏まえた句である。

○一枝…ここでは桂の一枝。ひとえだ。一本の桂を指す。これも先の郤詵の故事に基づく語。

▼桂林一枝…科挙の試験に合格して進士に及第したことに對する謙稱。

李白の「同吳王送杜秀芝赴奉入京詩」に「欲折一枝桂、還来雁沼前」の句が見える。

道真十五歳で元服したとき、母が詠んだ歌に「久方の月の桂もおるばかり 家の風をも吹かせてしかな」（『拾遺和歌集』卷八・雜上四七三）とあるのも、同故事を踏まえる。

158 ○南海…南方の海を指す。ここでは南海道のこと。六カ国、紀伊・淡路・阿波・讃岐・伊豫・土佐。ここでは讃岐国を指す。

▼道真は仁和二年（886）四十二歳、讃岐国司赴任が決まる。

『菅家文草』「187北堂饞宴、各分一字」に「我将南海飽風煙、更妬他人道左遷」の句が見える。

○百城…多くの城。

『漢語大詞典』では、「②借指各地方官」と説明し、潘昞の「冊魏公九錫文」の「劉表背誕、不供貢職、王師首路、威風先逝、百城八郡、交臂屈膝」の例を引く。

【類義語】

▼専城…一城の権を専らにすることで、地方長官（国司）となること。道真は讃岐守に任じたことを「専城」という。

『菅家文草』「275冬夜對月憶友人」に「月轉孤輪滿百城、無端惱殺客中情」の句が見える。